【指導案】　　〈1991年10月11日（金）〉

同和問題（道徳）学習指導案

板野中学校　３年Ｂ組
指導者　　森口健司

① 主　題　　人の世に熱あれ、人間に光あれ

② 主題設定の理由

４月の学級開きの日より、私は生徒一人一人がいつか差別解消の主体者として常に美しい生き方を創造し、自らの生き方あり方に誇りを持って一人一人の人生を生き抜いてほしいと願い、同和問題学習に寄せる私自身の思いや願いを語りながら、人間としての生き方について問い続けてきた。

最終学年のスタート、２年生より営まれてきた学年全体による同和問題学習授業を通して、生徒たちは本音の部分を語り出した。本年度第３回目の公開授業「きず跡」の学習とき、Ａ子が語る。「家族と一緒に同和問題について話し合うようになったんですけど、将来、私が地区の人と結婚したいと言ったらどうすると聞くと、父と母が言うんです。地区の人はきたない。家の誇りがよごれると言うんです。」続いてＢ子が語る。「私は今でもあそこへ遊びに行ったらあかんと言われる。あの子とつきあうなとも言われる。」これらの発言は生徒たちにとっても教師集団にとっても、今まで漠然としか見えていなかった部落差別の厳しい現実を見せつけられることになった。私はこのとき、同和問題学習とは、まさしく生徒たちの生命を大切に守り抜き、一人一人の生命を輝かせていく闘いだと思った。

１学期、そんな願いをもって、丸岡忠雄さんの生き方について丸岡さんの講演記録「同和教育への希い」を中心に学習していった。その授業の中で対象地区生徒のＣ子が「私は３年生になるまでは、自分が部落出身であることを絶対かくしていこうと思っていました。でも、いろいろな資料を勉強し、みんなの意見を聞いて、その言っていることを本当だと信じたとき、この仲間だったら私の一番つらい思いを打ち明けることができると思うようになってきました。今、私は二人の友だちに自分が部落出身だということを打ち明けています。まだ二人しか本当の友だちはいないけど、これからはもっとたくさんの本当の仲間を増やしていきたいです。」と語る。

そのＣ子を支えるかのように対象地区外の生徒Ｄ子が「私もＣ子さんにそのことを打ち明けてもらったんだけど、自分の一番苦しい部分を打ち明けてくれたんだから、私も心を開いて頑張っていかないかんと思うようになってきました。今、まだ二人にしか言えなかったかもしれないけど、もっとクラスの中の人たちがＣ子さんの気持ちを受けとめて、みんな今の時間を大

切にしてほしいと思います。」と語る。

Ｃ子やＤ子の訴えに励まされて対象地区生徒のＥ子が「今、３年生でも、何人かの人が、自分が部落出身ということを全体学習なんかで言ったんだけど、今、Ｃ子さんが二人だけと言ったけど、ここにいる３Ｂのみんなの前や多くの先生方の前で言えたんだから、信じてくれたと思いたいです。私も部落に生まれたんだけど、恥ずかしいと思ったこと一度も‥‥なかったけど‥‥ほなけど言うて差別されたらいやじゃと思うてずっと言えんかったけど、このクラスの子だったら、信じることができるからこのことが言える。」と語る。

そのＥ子を支えるかのように、対象地区外の生徒Ｆ子が「Ｃ子さんとＥ子さんが言ってくれたけど、これから今日打ち明けたことを後悔するようだったら、私やはいったい今まで何をしてきたんなと思ってくれていいと思います。私も部落ということを言うた子を変な目で見ようなんて一つも思うてないし、見たらごっつい自分があほらしいなってくると思います。それで、この前読んだ本で心に残っていることなんだけど、一様世間で言う親友とは、親しい友と書いて何でも話し合える友だちということだけど、本当の親友とは、心の友と書いて自分の恥ずかしいところでも、何から何まで端から端まで話し合える友だちを心友というそうです。私もそんな心友をたくさんつくりたいです。」と語る。

続いて対象地区生徒のＨ子が絶句しながら、「私も部落出身ですが、このクラスのみんなだったらこのことが言えると思います。この前友だちに自分が部落出身ということを打ち明けたら、『ほんなん関係ないでえ』と言ってくれました。私は本当の友だちがいたんだということがわかったのでよかったなあと思いました。」と語る。それを支えて発言が続く。

多くの仲間たちの支えの中で対象地区生徒が立ち上がっていく。対象地区生徒のＩ子は「私も部落出身ですけど、泣いている子を見たら泣いてほしくありません。そして、その泣いている外側だけ見てほしくありません。悲しみが深いから涙が出てきて止まらないんだけど、この悲しみや苦しみがわかっている友だちがこのクラスにいっぱいいるし‥‥。本当は今、泣きたいんだけど、涙をこらえています。」と語り、以前に３年生全体の中で、自分の一番つらい部分を語ったことのある対象地区生徒のＪ男が「やっぱり自分から心を開くことによって友だちも心開いてくれるということが、今、本当にわかってきたと思います。心を開くことにより信じ合う友ができ、お互いに本音で思いをぶつけ合うことができると思います。お互いに涙が出るというのは、涙を流す友だちの気持ちはわからないことはないけど、これからの学習によって涙は出てこなくなると思います。実際にぼくもこのクラスでは、信頼している友はたくさんいるし、全体的にも友だちはたくさんいる方だったけど、表面的な友だちがほとんどで本当に信じ合った友だちはあまりいなかったと思うんです。でも、この学習によって、信じ合える友だちがぼく自身の中で増えていったと思います。自分から心を開くことによって、まわりの人も心を開いてくれたことが本当にうれしいです。」と語る。

その仲間の思いをしみじみとかみしめるように、対象地区生徒のＫ男が「ぼくも部落の人間です。今までこのクラスにもそのことをわかってくれる友だちはいないと思っていたけど、

『みんないいなあ』と思いました。森口先生に家庭訪問の時に『お前は部落の人間だ』と言われたとき、自分には差別心がないと思っていたけど、実際にありました。それで、この授業では泣かないと思っていたけど泣いてしまいました。これからこれをバネとして部落解放の道に進んでいって、気軽に部落の人間と言えるような社会をつくっていきたいです。」とその苦しかった胸の内を語っていく。

そして翌日苦しい胸の内をさらけ出した対象地区生徒の一人H子が、次のような生活ノートを記している。

「私は今日の発言で部落のことが恥ずかしくなくなりました。もう何のこだわりもありません。言っている時は自分で何を言っているのかわからず、涙が出てきたけれど、E子さんやC子さんが発言したのに、私だけ黙っとってもいけないなあと思っていたんです。そしたら、自然と手が挙がったのが不思議でした。心臓はドッキンドッキンと破裂しそうだったけど。私の発言の後、L子さん、M子さんたちが言ってくれて、ほっとして言ってよかったなあと思いました。泣くのは今日で終わりにします。J男君とか、N子さんとかも他人の涙は見たくないと言っていたし。今日の授業で私は多くの人に支えられているなあと実感しました。みんな信じ合える仲間です。板野に生まれたこと、部落に生まれたこと、まだまだ不安とかがあるけど、私は強い人間になりたいです。『歎くより怒ることだ』を胸にきざんで。今日で新しい道が開けたような気がします。今まで『学習会の通知やもらいたあない』と歎いていた自分がばからしくなりました。これからも学習会に参加していきたいし、どんどん学習していきたいです。いつか絶対絶対差別がなくなっていると思います。何か、楽しみです。とにかく、今日の授業、忘れられない一日になりそうです。うれしかった。よかった。ビデオ貸してください。」

また授業の後半、吹き出るような涙で語った対象地区生徒のK男も次のように記している。

「今日一つの変革が起こったようだった。今日の授業で、どうして丸岡さんがこんなに訴え続けてきたのか。それを僕らがどう受け止めるかが見えてきたような気がします。今までJ男君一人にたたかわせているようなものだったけど、今日の授業は自分にとっても助っ人みたいになったし、本当に仲間になれたと思う。今日が出発のようなものです。これからの航海をどうしていくか。これからもっともっと話のできる友だちを増やしていきたいと思う。今日、僕は泣いてしまった。泣こうと思っていなかったのに涙がこぼれた。家庭訪問の時は、目に涙を浮かべたけど流すことはなかった。家庭訪問の時の涙は、心の奥底に差別心があってでてきた涙だったかもしれないけど、今日の涙は違う別のものだと思います。」

そして、授業の中で対象地区に生まれた仲間を必死に支えようとした発言したF子も、その思いを次のように記してきた。

「今日の授業、いつもの雰囲気に火をつけたのがC子さんだったように思う。『私は部落出身ですが‥‥』その言葉にはじかれたみたいにE子さんたちが自分のことを打ち明けていった。そして、正直言ってK男君の涙には驚いた。今まで忘れかけていた人間の本質を思い起こさせてくれた涙だった。今日何人もの人が部落出身であることを打ち明けた。聞いたとき、『ふー

ん、あの子も部落出身なんか。』そう思っただけでそれ以上は何も感じず、打ち明けてくれたうれしさのようなものがあった。今日言った子は私たちを信じて言ってくれた。これからこの問題でくじけかけたとき、『私は信頼されているんだ。』と思って頑張っていこうと思う。今日の授業を終えて私が３Ｂのみんなに言いたかったことは『ありがとう！』だった。私を信じてくれた人たちへのありがとうの気持ちだし、こんな最高の授業をしてくれたみんなへのありがとうの気持ちがあった。そして、今の私を形成してくれている私へのありがとうも含まれている。絶対50分は短過ぎた。勇気を持って手を挙げたとたんに、チャイムが鳴って意見が言えなかった子を見たとき、『もったいない』と思った。せめてあと15分ほしかった。そしたら、もっといい授業だっただろうに‥‥。私たちはまた大きくなった。まわりで見ていた先生たちにも何かを与えたと思う。そして、差別解消の出口に近づいた。こんな授業は二度とないかもしれないけど、今日の授業に参加できたことずっと残っていくと思う。今日をステップにまた頑張っていきたい。」

信頼という固い絆で結ばれた生徒たち、その思いをかみしめるかのように対象地区生徒の○子さんが２学期始め「涙」という詩を書いた。

《涙》

部落という言葉を聞いて
心が重たくなるのはなぜだろう
悲しくなるのはなぜだろう

この差別のために何人の人が苦しみ
何人の人が涙を流しただろうか
そして何人の人が自らの生命を絶っただろうか

私は部落をつくった人
また部落を差別するすべての人を
決して許さない

私たちが流した涙は
いつか川をつくるだろう
そして部落差別と大きな悲しみを
水といっしょに流してくれるだろう
どこかへ消えてしまうだろう

私は解放の主体者として闘い続ける
部落差別解消の日まで

この詩に込められた思い、それはクラス全員の中にいつまでも流れていく思いであると信じる。４日の出会いの日から営々と続けてきた同和問題学習、その学習の中によって信頼という固い絆で結ばれてきた生徒たち、その絆をより確かなものとし、一人一人が差別解消にむけてよりたくましくより力強く生きてほしいと願う。

このお互いの本当の思いをぶつけ合い、同和教育の喜びをつかみかけた生徒たちと、私は同和問題学習のまとめとして水平社宣言を学びたいと思う。「人の世に熱あれ、人間に光あれ。」と叫んだ水平社宣言。人間性が蹂躙され魂の冷え凍るような思いで生きてきた対象地域に人々。数々の差別の痛みを知っているからこそ、対象地域のものだけでなく、すべての人間の上に人間の尊厳が光や熱のように輝かしくよみがえれと願った。差別してきたものこそ忌まわしい存在であり、長い間だ差別の中を生きてきた自分達こそ、真の人間として讃えられるべきと胸をはり、誇りをもって高らかに唱い上げた。このたくましさ優しさが、私の心をとらえて離さない。水平社宣言が私にとって何であるかを生徒一人一人に語りながら、生徒自身が対象地域の人々との間につくっている高い壁を自らの力で打ち破らせたい。さらに、差別の檻に閉じ込められた自分を自らの力で解放し、すべての人間の幸せを自分のものとしてとらえる心を育て、同和問題にかかわる生き方を確立したいと本主題を設定した。

③　ねらい

厳しい部落差別の中で、すべての人間の解放を高らかにうたい上げた人間としての誇りうる生き方に共感させ、自分自身を見つめ、周りを見つめるところから、積極的に差別解消に立ち上がる意欲と実践力を育てる。

④　視　点　　集団と連帯

⑤　指導計画

(1) 常時指導　　生活ノートや１分間スピーチなどを通して、自分自身の生活をもとに人間としての真実の生き方とは何かについて考えさせている。

(2) 関連的指導　　道徳「ナイン」（井上ひさし）

人間は多くの人と信頼の絆で結ばれており、その固い絆が生きる支えとなっていることを理解し、よりよく生きようとする態度を養う。

(3) 核心的指導　　第一次　道徳「水平社宣言」……４時間(本時3/4)

第二次　道徳「水平社宣言讃歌」……２時間

(4) 発展としての関連指導

特活「進路、私の人生」

同和問題学習の中からつかみ取ったものを土台として、人間としてよりすばらしい生き方を求めるとともに、自分の進路について考えさせる。

(5) 常時指導（発展）

仲間の幸せの中に自らの幸せを見い出し、仲間の悲しみをみんなで幸せに変えていこうとする共感と連帯の絆を土台とし、人間を大切にする、人間を尊敬する教育をよりいっそう推進していく。部落差別の悲しみは人間の悲しみなんだという視点に立ち、家庭・地域社会において部落差別解消に取り組む態度と一切の差別を許さない生き方をすべての生徒の中に育てる教育を実践していく。

⑥ 本時の指導

(1) 目　標

人間として生命の輝く生き方とは、どんな生き方をいうか、生きることの意味を求め、自らを解放する力を育てる。

(2) 展　開

学　習　活　動	期待する生徒の反応	指導上の留意点
1　部落の民衆自身の「人間の尊厳」の自覚を訴えた意味について考える。	・人間は互いの存在を認め合いその生き方を尊敬し合って生きるものである。 ・自分の生き方に誇りを持って生きるのが真の人間の生き方である。 ・苦しみの中に生きてきたからこそ、人間として大切なものや人間の本質を知っている。 ・人間とは憐れむものではなく尊敬するものであるという人間の真実に目覚めていた。	・人間としての尊厳に目覚めた部落の人たちが、すべての人間の幸せを願ったことについて考えさせる。 ・「誇り得る人間の血は涸れずにあった」ということの意味をとらえさせる。 ・宣言がどうして同情融和運動を否定したかを考えさせる。
2　宣言が団結を訴えた意味について考える。	・人間はどのような状況にあっても共感と連帯の絆に結ばれ心を一つに生きていかなければならないということを知っていた。	・水平社の団結が私たちに訴えるものは何であるかを考えさせる。

学　習　活　動	期待する生徒の反応	指導上の留意点
	・分裂が人間を不幸にしていくということに目覚めていた。 ・団結とは弱いものが生き残っていく知恵であるということをその生きざまの中から学び取っていた。 ・訴えることにより道が開かれるということを訴えている。 ・人間が人間として生き抜くための抵抗の精神を培う土台である。	・水平社の団結の奥に秘められた意味を追求させる。 ・人間としての尊厳を守っていくために団結があったことを理解させる。
3　「人の世に熱あれ、人間に光あれ」をどう受け止めるかを考える。	・人間が人間らしく生きていく道しるべとなっていく言葉である。 ・宣言の精神を日々の生活の中に生かしていかなければならない。 ・すべての人たちに生きる勇気を与えるものとして宣言文は存在している。 ・人間は互いの存在を尊敬するという真実の生き方を忘れてはいけない。	・「人の世に熱あれ、人間に光あれ」の中に秘められた意味について考えさせる。 ・水平社宣言が日本の近代社会における人権宣言と言われるゆえんについて考えさせる。